



人間には700万年にわたる 祖先の情報が伝えられている。

画家 小野寺 純一

私の住む愛子の地に、広瀬図書館が誕生し本年で30周年、まことにおめでとうございます。これからも末永く、地域の文化向上のための貴重な場であることを、切に願うひとりであります。

30年といえば昔風にいうと三昔、さまざまなことがありました。世界では強大を誇ったソ連の崩壊、中国の台頭、イスラム世界との確執、AIの驚異的な発達、国内では普賢岳の大火砕流、阪神淡路大震災、平成23年には東日本大震災に遭遇、そして今度は新型コロナウイルスの世界的な恐怖の大流行、地球温暖化によるさまざまな不具合などなど、おそろしげなことが続くこのごろであります。災害のなか黙々と救援活動にはたらく自衛隊・消防・警察・医療関係・ボランティアの皆様の人を思う心に、感動を新たにするのでした。新型コロナも、ワクチン接種もすすんできて、まわりにも2回受けた人もふえてきました。昨年からは自粛と同時に、三密を避け、マスクの着用・帰宅後の手洗いの励行のおかげで、昨年は風邪をひきませんでした。この世界ゆるがすコロナに関して、ある新聞の特集に、人間と感染症の戦いについて、興味深く読んだなかに、人類が出現して700万年、その間祖先は、これまでさまざまな環境に適応しながら、生きのびてきたんだそうです。その中には感染症を乗り越えてきた歴史も含まれ、ちゃんと遺伝子にその情報も刻みながら、次の世代へ受けつがれていくんですね。

図書館に、英国の作家でSFの父と呼ばれるH・G・ウェルズは、タイムマシンで行く80万年後の世界、透明人間、など傑作を残していますが、1898年に発表した「宇宙戦争」が面白い。内容は、20世紀初めに、火星人が地球に來襲し、高度に発展した武力で地球を侵略し、あわや成功するかにみえた矢先、火星人们は突然勢いを失い、死んでしまい、地球は救われるという物語で、後に映画にとりあげられるなど、宇宙のなかの地球というイメージが定着する作品となりました。

ではなぜ火星人は滅んでしまったのか、その原因となったのが人類も知らない未知のウイルスだったのです。荒廃した母星を脱出し、素晴らしい環境の地球、火星人们は未来を夢んでいたにちがいません。この物語はたんなる小説ではないような気がします。環境問題・感染対策・医療・科学・さまざまな身の廻りの問題を火星人の侵略をとおして、人間の生き方を考えるテキストと思えます。

この新型コロナウイルス騒動も、やがて終息することでしょう。その時私たちの世界や暮らしは、どのようになっているか、あと30年元気で見届けたいと念願しているところです。



(絵：小野寺純一さん)